

# 刈谷市

## 歴史の小径



野田雨乞笠おどり

(重原・半城土・野田)



野田八幡宮

### 文化財愛護シンボルマーク



ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の斗拱(ますぐみ)のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を、過去、現在、未来にわたり、伝承していく愛護精神を象徴している。

### 歴史の小径

## 重原・半城土・野田地区

#### ①宮城道雄供養塔

「春の海」を作曲した箏曲家宮城道雄は、大阪・神戸・京都など関西での演奏旅行のため夜行急行「銀河」に乗ったところ、昭和31年6月、刈谷駅の東で列車から落ちて死亡した。

供養塔は三重宝塔で、昭和32年5月、刈谷市、宮城会、日本盲人会の三者によって転落場所近くに建てられた。

#### ②重原陣屋の跡

寛政の一揆によって刈谷藩は、幕府から村替えの処分を受け、重原村、野田村、半城土村、高須村、小垣江村、犬ヶ坪村等18か村を、奥州の福島領・幕領の一部と交換することになり、以来福島藩は重原に陣屋をおいて郡代により三河の飛地を治めた。碑は浄福寺の横にある。



#### ③福島領の碑

「従是東福島領」の碑が、重原陣屋の碑の隣に並んでいる。江戸時代には東海道筋の福島領の東と西の端にあったもので、のち現地に移築された。同様に知立市上重原町公民館の裏に「従是西福島領」の碑がある。

#### ④浄福寺

真宗大谷派の寺で、文武天皇(707~715)の頃の創建で、宝永7年(1710)に上重原の万福寺から入寺して再興したといわれる。

#### ⑤重原の地蔵尊

道しるべを示した地蔵で、「右ちりうーツ木道、左かりやステンシヨ道」と記してある。かりやステンシヨとは当時の刈谷停車場(刈谷駅)のことで、刈谷駅が設置されたのは明治21年である。

#### ⑥重原の三井戸

三井戸と総称される。乞井戸(コイド)・佐次兵衛井戸・慕井戸(シタイド)の3つの井戸がある。弘法大師が重原にきたさい、村人のために祈って杖で土地に穴をあけると清水がこんこんとわき出たといわれる伝説が残っている。残っているのは佐次兵衛井戸である。他の2つの井戸は廃止され浄福寺に統合し、山門前に祀られている。

#### ⑦半城土古城跡

近世の地誌「三河国二葉松」にある『半城土村古城 稲垣雅楽助』とあるものと思われる。半城土町西裏には通称「ジト」と呼ばれるところがあり、地頭のなまだったもので、この付近に地頭の館または城があったのではないかとと思われる。

#### ⑧齋宮

齋宮と呼ばれる小さな祠(ホコラ)がある。オシャクジサマと古くからいわれ、良縁、安産、子育てなど、幸せの神として信仰されてきた。オシャクジサマは、石神(シャクジン、イシガミ)とも呼ばれ、石を神体として祀っている。

#### ⑨願行寺

創建は慶長(1596~1615)の頃と伝えられる。

山門は重原陣屋の門で、明治4年の廃藩により不要となったものを半城土村が買い受け、明治7年に移築したものである。



#### ⑩十応寺

現在は廃寺となっている。もと禅宗の寺で、境内に秋葉堂・行者堂・地藏堂がある。重原陣屋の玄関が当寺に移築されたといわれる。

#### ⑪半城土天満神社

依網連(ヨサミノムラジ)の子孫といわれる三右衛門が寛徳元年(1044)に創建されたといわれる。天満神社は天満天神すなわち菅原道真を祀ったお宮である。

#### ⑫教栄寺

弘長3年(1263)の創建で、寿福山大徳寺と称し、野田八幡宮の西に所在していたが、天文(1532~1555)の頃兵火にあって焼失してしまったため永禄(1558~1570)の頃、寺号を教栄寺と改め、現在の地に再興された。

#### ⑬昌福寺

応永15年(1408)の創建で、承応元年(1652)に浄土宗に転じ、寿永山昌福寺と改めた。寛政の一揆の発端となった寺参会が小垣江専称寺とともに開かれたことでも知られる。



#### ⑭加藤与五郎生家跡

フェライトの父、日本のエジソンともいわれる加藤与五郎は、明治5年(1872)野田村に生まれた。磁性材料の発明など300余りの発明を行い、昭和32年文化功労賞を受けるなど数々の偉業を成し遂げた。

#### ⑮野田八幡宮

正安2年(1300)の棟札に、白鳳5年(676)大市郷(オオイチノゴウ)今留丘(イマルノオカ)に創建され、今留明神・物部氏の祖神を祀ったとある。

むかしから武の神として武人の崇敬があつく、歴代の刈谷藩主、福島藩主に尊崇され、とくに福島藩主の板倉氏は三河領内の総氏神として尊崇した。

#### ⑯野田雨乞笠おどり

正徳2年(1712)に雨乞おどりが行われたという記録がある。昭和17年を最後に行われなくなったが、昭和54年から再び奉納されるようになり、翌年に雨乞笠おどり保存会が発足して伝統を保存している。

例年8月に行われる。

#### ⑰野田史料館

野田地区で建設した地区の史料館で、昭和56年に開館した。江戸時代から明治時代にかけての野田村の古文書を中心に、野田八幡宮に伝わる刀剣類、甲冑類、棟札等も保管している。現在、毎月第1日曜日と15日、第4土曜日の午前中に開館している。

#### ⑱依佐美第三尋常小学校跡地

明治6年(1873)半城土・野田・中村が中村学校を設立し、善敬寺庫裏を教室として開かれ、その後野田学校、半城土尋常小学校、野田尋常小学校、依佐美第三尋常高等小学校、依佐美第三尋常小学校、野田国民学校、野田小学校と改称し、昭和33年に半高小学校を統合して双葉小学校が開校するまで存続した。

#### ⑲塔の腰地蔵

桃里の句にもうたわれ、もとは依佐美第三尋常高等小学校の運動場にあった。

#### ⑳加藤与五郎展示室

南部生涯学習センター内にあり、加藤与五郎にまつわる資料が展示されている。休館日は月曜日と年末年始。



距離 約3.7km  
徒歩 約2時間30分コース